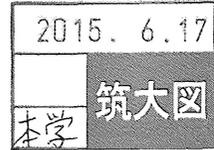


日本語と日本文学

第 58 号



-
- 文学的文章を教材とした読みの指導における〈見ること〉の意義
——「夢十夜（第一夜）」を例に—— …… 仁野平智明（1）
- 1960（昭和35）年高等学校学習指導要領における「古典としての古文」の成立過程
——古「典」教育における古「文」の位置—— …… 八木雄一郎（29）
- オノマトペの語形成とレベル順序づけ …… 那須 昭夫（41）
- 「巖子安和」に関する覚え書き
——『三体詩幻雲抄』など三体詩抄物を資料に—— …… 劉 玲（63）
-

平成27年 3月

筑波大学日本語日本文学会

投稿規定

一、投稿論文は四百字詰め原稿用紙四十枚（一万六千字）程度。ワープロ原稿の場合は電子データを添えて御投稿下さい（原稿と電子データは原則としてお返しいたしません）。

一、原稿メ切は毎年二度、二月末日および八月末日です。

一、本誌の論文は、附属図書館の電子図書館システムに登録され、全文データベースとして蓄積・利用されます。

一、原稿送り先

〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸・言語専攻

『日本語と日本文学』編集委員会

投稿案内

本誌では会員の皆様の御投稿をお待ちしております。

学会機関誌というまでもなく、学外のOB、学内の教員および学生の三者が一体となって、当該学問に貢献しうる学問的成果を公表してゆく媒体として存在するものであります。従いまして、本誌の一層の充実には、この三者の構成員の熱意に負うところが多大であります。本誌の価値を高め発展

させてゆくためには、これら構成員から質の高い論文の投稿を仰がねばなりません。構成員、とりわけ学外のOBの皆様の積極的な御協力を願う次第です。

投稿は「投稿規定」により、また投稿原稿は編集委員会の審査を経た上で掲載させていただきます。なお、抜刷の作製料については投稿者の御負担とさせていただきます。御了承下さい。

編集後記

第五十八号をお届けします。本来でしたら平成二十六年八月にお届けすべきところ、諸般の事情で遅れましたことをお詫び申し上げます。

今号は、日本語学と国語教育学の若手研究者の皆さんが健筆をふるってくださいました。お気づきの方もいらつしやるかもしれません。今号はすべて横書きの論文となりました。昨今の国立大学をとりまく環境も人文系にはなかなか厳しいものがあります。少子化にともなう受験生の減少のなか、とくに人文系への志願者が大学・大学院ともに減少しています。あわせて、法人化による校費の削減は甚だしいものがあります。すべてが理系の筆法での改革ばかりが先進的とみなされ、グローバル化の名の

下で、「日本人」が「日本」に関する研究さえも「英語」で発信することをよしとするかのごときは、まことに明治の鹿鳴館時代の欧米への劣等感をさらけだしていた日本さながらの現象ではないでしょうか。

しかし、鹿鳴館時代の後には、日本美術院に代表されるような日本文化への回帰現象がおこりました。人間は個人としても共同体としてもアイデンティティがなくては生きていけないからでしょう。「よつてたつ」べきところなくしては、それこそグローバル化した多文化社会のなかで翻弄されるのみであります。そのことを広く社会に発信するためにも、本誌のますます発展は不可欠であると考えております。

（編集委員長 石塚）

平成二十七年三月三十一日印刷
平成二十七年三月三十一日発行

〒305-8571 茨城県つくば市天王台一―一―一
筑波大学文芸・言語専攻

編集・発行 筑波大学日本語日本文学会

代表者 大 倉 浩

印刷所 第一印刷株式会社

〇〇二八二(三三) 一五五一